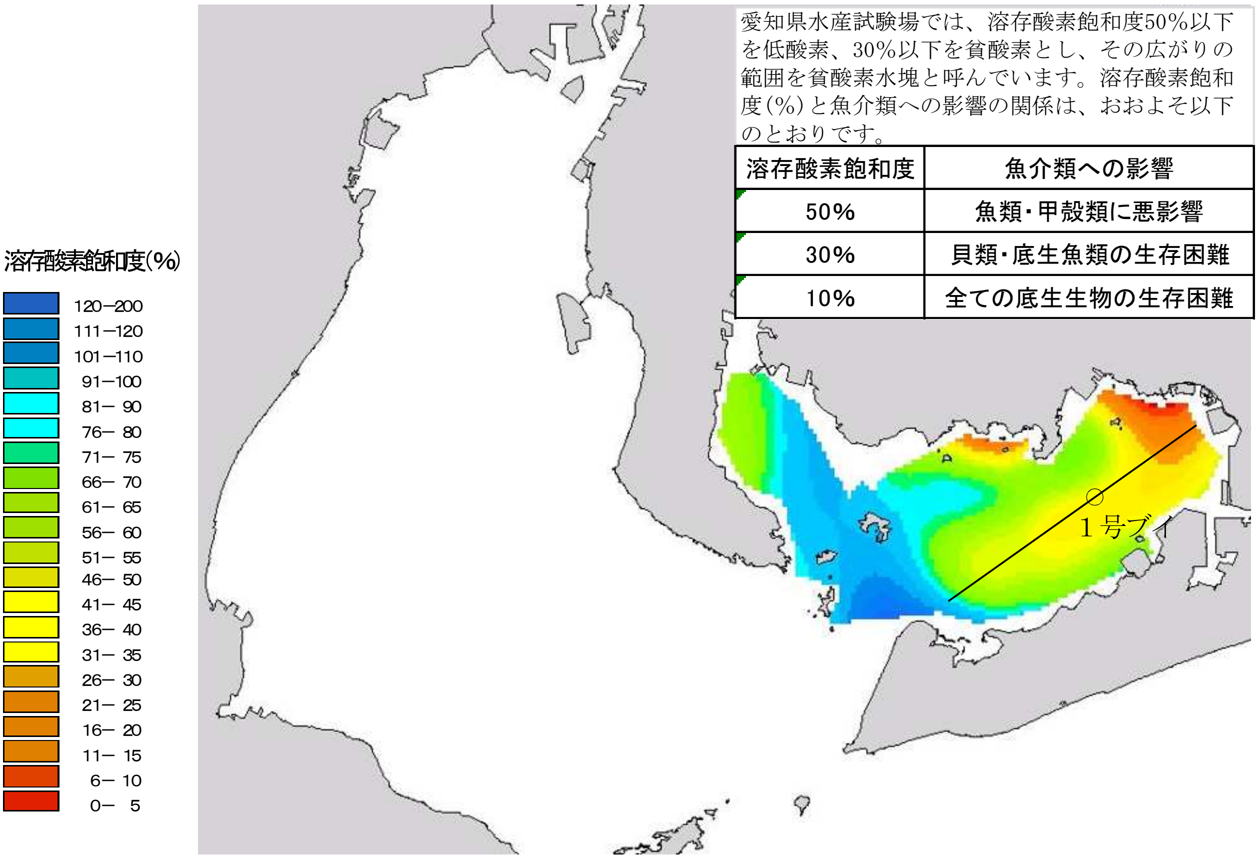
伊勢・三河湾貧酸素情報（Ｒ２－１９号）

令和２年１０月２３日

愛知県水産試験場　漁場環境研究部

令和２年１０月２１、２２日に三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。



愛知県水産試験場では、溶存酸素飽和度50%以下を低酸素、30%以下を貧酸素とし、その広がりの範囲を貧酸素水塊と呼んでいます。溶存酸素飽和度(%)と魚介類への影響の関係は、おおよそ以下のとおりです。

溶存酸素飽和度	魚介類への影響
50%	魚類・甲殻類に悪影響
30%	貝類・底生魚類の生存困難
10%	全ての底生生物の生存困難

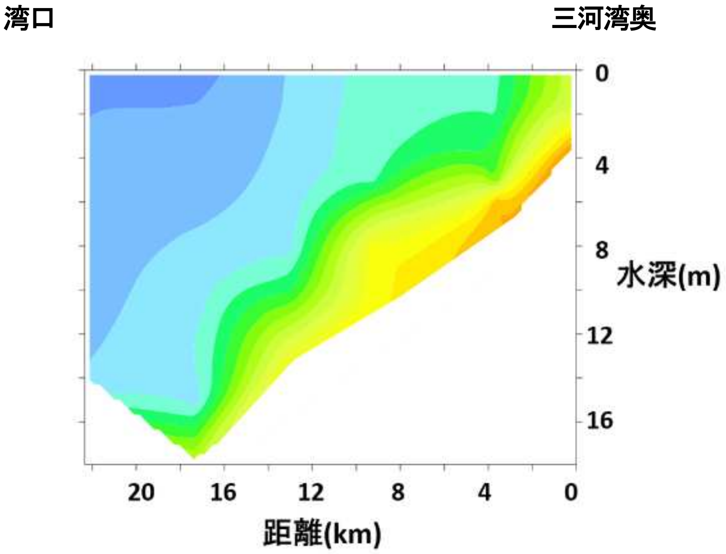


図１　三河湾（１０月２１、２２日）底層の溶存酸素飽和度の分布（上図）及び上図直線部分の鉛直分布（下図）（愛知県「へいわ」調査）

三河湾

１０月２１、２２日の調査結果を図１に示しました。前回調査では三河湾全域で貧酸素水塊は確認されませんでしたが、今回の調査では、渥美湾奥部と幡豆地先に貧酸素水塊が分布していました。

三河湾海況自動観測ブイ１号ブイ（蒲郡沖）では、１０月１４日から１７日にかけてや、２１日から２２日にかけてなど、貧酸素水塊が出現と消失を繰り返している様子が観測されました。

表底層間での水温･塩分格差が非常に小さくなっており､上下層の混合が起きやすい状況となっています。今後も、貧酸素水塊の発達と解消を繰り返しながら、徐々に規模が縮小していくと考えられます。

表２　調査時の水温・塩分

	水温(℃)	塩分
表層	20.4～22.5	25.1～30.3
底層	20.9～22.8	29.4～31.4

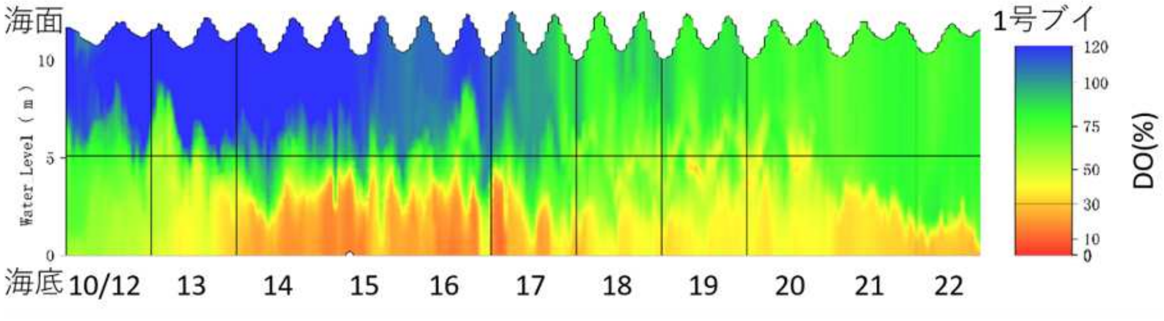


図２　溶存酸素飽和度（ＤＯ）の経時変化（三河湾海況自動観測ブイ１号ブイ）

参　考

前回調査時の底層の溶存酸素状況（図３）

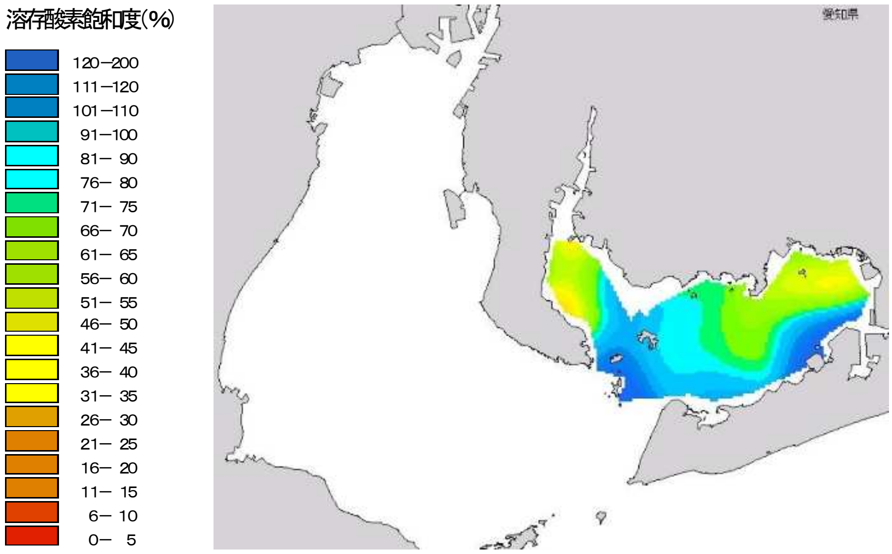


図３　令和２年１０月５、７日（三河湾）